

NO	項目	施工中及び写真撮影ポイント	備考
1	施工前	・黒板不要・2方向から撮影・周辺状況入れる・資材入れない・乾いた状況で撮影	・日付は着工日・方位記入・竣工写真と見開きで
2	竣工	・黒板不要・2方向から撮影・周辺状況入れる・資材入れない・乾いた状況で撮影	・日付は舗装工事前の日付・施工前写真と見開きで
3	安全対策状況	・申請と同様に対策していることを確認 (写真複数枚で良いのですべて)	・舗装本復旧の際もまた別途が必要
4	道路占用許可標示板	・許可番号、許可年月日、水道事業管理者名、道路管理者名、間違わないよう注意	・看板の文字が見えない場合はアップの写真も必要
5	舗装切断状況	・カッターにて舗装切断状況を撮影	・2回に分けて掘削する場合は合計等で分かれればよい。
6	舗装切断後の寸法	・舗装をはがす前に計測・数字読めるよう撮影・黒板に実測値(設計値)を表記	・申請時の掘削面積と合致するか確認
7	舗装取壊状況	・重機に近づきすぎない・当該箇所で行っていることが分かるよう撮影	
8	舗装殻積込状況	・重機に近づきすぎない・当該箇所で行っていることが分かるよう撮影	
9	既設の舗装厚の計測	・はがしたアスファルトで計測しない	・市道は舗装厚で本復旧の舗装構成が決定
10	掘削状況	・重機に近づきすぎない・当該箇所で行っていることが分かるよう撮影	・掘削の側面に隙間がある場合、本復旧前に必ず協議をする
11	発生土積込状況	・重機に近づきすぎない・当該箇所で行っていることが分かるよう撮影	
12	掘削深度計測	・深度が1.5m以上の場合は必ず矢板設置・湧水がある場合、処理状況も撮影	・湧水の処理は側溝に流さない・国県道は柱状図をとる
13	既設・新設埋設管深度計測	・写真が暗くならないよう明るさ調整・GLから管上までの深度は最低でも0.6m以上	・配水管は口径によって既設の深度は変わる
14	防護管押込状況(使用の場合)	・えぐり掘しない・側溝下に隙間がある場合、撤去再設置にて行う	・撤去再設置の際は十分転圧すること・L型側溝は原則撤去再設置
15	防護管深度計測(使用の場合)	・他の工作物と、離隔(30cm以上)が取れていることが分かるよう撮影	・やむなく耐摩板を使用したい場合は占用担当と事前に協議
16	保護砂敷均し状況	・仕上がり管上20cm・20cm毎の転圧・黒板に何回目と記入・素手で行わない	・山砂等・土のう等の掘削箇所に残置しない
17	保護砂転圧状況	・20cm毎の転圧・黒板に何回目と記入・分水栓の真上を転圧し破損しないよう注意	・山砂等
18	保護砂転圧後の計測	・仕上がり管上20cm・20cm毎の転圧・黒板に何回目と記入	
19	砕石敷均し状況	・20cm毎の転圧・黒板に何回目と記入	・切込砕石(0~40)
20	砕石転圧状況	・20cm毎の転圧・黒板に何回目と記入	・切込砕石(0~40)
21	砕石転圧後の計測	・20cm毎の転圧・黒板に何回目と記入	・切込砕石(0~40)
22	標示シート	・原則GLから40cm・舗装の路盤が厚い場合その限りではない	・標示シートは路盤には入れられない・水道はシートの色は青
23	仮復旧分の厚み計測	・申請時の厚さが確保できているか確認	・仮復旧の厚さは交通量によるため、申請時に道路管理者に確認
24	アスファルト合材敷均し状況	・申請時の厚さが確保できているか確認・平坦性を注意する	
25	アスファルト合材転圧状況	・申請時の厚さが確保できているか確認・平坦性を注意する	
26	アスファルト合材転圧後	・申請時の厚さが確保できているか確認・平坦性を注意する	
27	路面標示復旧状況	・点字シート、白線等が既設であった場合、仮復旧でも設置	・白線は施工前から薄くても必ず施工

※国県道の舗装本復旧については柱状図を用いて協議が必要。

NO	項目	施工中及び写真撮影ポイント	備考
1	着工前	・黒板不要・2方向から撮影・周辺状況入れる・資材入れない・乾いた状況で撮影	・日付は給水管布設工事竣工以降・竣工写真と見開きで
2	竣工	・黒板不要・2方向から撮影・周辺状況入れる・資材入れない・乾いた状況で撮影	・日付は工事許可期間内
3	安全対策状況	・申請と同様に対策していることを確認(写真複数枚で良いのですべて)	・給水管布設の際とは別途で必要
4	道路占用許可標示板	・許可番号、許可年月日、水道事業管理者名、道路管理者名、間違わないよう注意	・看板の文字が見えない場合はアップの写真も必要
5	舗装切断状況	・カッターにて舗装切断状況を撮影・余分に切断しない・雨天時は施工しない	
6	舗装切断後の寸法	・舗装をはがす前に計測・数字読めるよう撮影・黒板に実測値(設計値)を表記	・2回に分けて掘削の場合、合計等で分かればよい。
7	舗装取壊状況	・重機に近づきすぎない・当該箇所で行っていることが分かるよう撮影	
8	舗装殻積込状況	・重機に近づきすぎない・当該箇所で行っていることが分かるよう撮影	
9	機械掘削状況	・重機に近づきすぎない・当該箇所で行っていることが分かるよう撮影	・掘削の側面に隙間がある場合、速やかに報告
10	発生土積込状況	・重機に近づきすぎない・当該箇所で行っていることが分かるよう撮影	
11	路床材敷均し状況	・施工は必要に応じて	・山砂等・土のう等の掘削箇所に残置しない
12	路床材転圧状況	・施工は必要に応じて・十分転圧すること	・山砂等
13	路床材転圧後の計測	・施工は必要に応じて・GLからの深さを計測・縦横の延長を計測(国県道の場合)	・山砂等・国県道は路盤の面積≠復旧面積のため
14	路盤材敷均し状況	・舗装構成は事前に確認(国県道は柱状図で協議)した上で施工	・下層⇒切込砕石(0~40mm)・上層⇒粒調砕石(0~40mm)等
15	路盤材転圧状況	・十分転圧すること	・下層⇒切込砕石(0~40mm)・上層⇒粒調砕石(0~40mm)等
16	路盤材転圧後の計測	・路盤の厚さと路盤からGLまでの深さを計測・縦横の延長を計測(国県道の場合)	・下層⇒切込砕石(0~40mm)・上層⇒粒調砕石(0~40mm)等
17	面取状況	・ナナメカッターでなく面取カッターを使用すること	・ナナメカッターでは断面が滑らかで剥離しやすいため
18	プライムコート塗布状況	・乳剤は飛散しないよう注意・冬期は外気温(5℃以上)を計測	・路盤と舗装の接着を良くするため施工
19	プライムコート塗布完了	・写真に工具や資材等はいれないよう注意	・路盤と舗装の接着を良くするため施工
20	プライマー状況	・コテ等で側面に塗る	・接着を良くするため下処理
21	基層AS到着温度検温	・110度を下回っていないことを確認し撮影	
22	基層敷均し状況	・敷均しは速やかに行うこと	・粗粒度AS
23	基層AS舗設温度検温	・110度を下回っていないことを確認し撮影	・粗粒度AS
24	基層転圧状況	・十分転圧すること・平坦性を注意する	・粗粒度AS
25	基層転圧後の計測	・縦横を計測	・粗粒度AS
26	タックコート塗布状況	・乳剤は飛散しないよう注意・冬期は外気温(5℃以上)を計測	・表層と基層の接着を良くするため施工
27	タックコート塗布完了	・写真に工具や資材等はいれないよう注意	・表層と基層の接着を良くするため施工
28	プライマー状況	・コテ等で側面に塗る	・接着を良くするため下処理
29	端部加熱状況	・バーナー等で加熱	・新旧のASを密着させるため施工
30	表層AS到着温度検温	・110度を下回っていないことを確認し撮影	・密粒度AS
31	表層敷均し状況	・敷均しは速やかに行うこと	・密粒度AS
32	表層AS舗設温度検温	・110度を下回っていないことを確認し撮影	・密粒度AS・舗装面積が広い場合解放温度(50度以下)も検温
33	表層転圧状況	・十分転圧すること・平坦性を注意する	・密粒度AS
34	表層転圧後の計測	・縦横を計測・出来形が変わる場合は竣工図に記入	・密粒度AS
35	路面標示復旧	・点字シート、白線等が既設であった場合、必ず原型復旧	・白線は施工前から薄くても必ず施工